

つばめ会会報

“Slope”

第15号

目次

2004年インカレ特集

伊賀インカレ報告

執筆協力：仁多見剛(20期)

インカレの感想とこれからの OLT について

斎藤孝男(23期)

主人公であるために

徳江勇樹(23期)

2004年度以降のインカレについて

村上諒一(25期)

部長の言葉

北村伸一(25期)

旧部長の言葉

坪居大介(24期)

第15回 OLT 杯開催

OLT 杯の反省等

前田裕太(24期)

つばめ杯を獲得して

仁多見剛(20期)

OLT 杯運営を終えて

蔵田真彦(22期)

全日本大会報告

第7回つばめ会総会・懇親会開催

2003年度会計報告

新幹事の紹介

ML・ホームページについて

2003年度つばめ会活動報告

編集後記

伊賀インカレ報告

去る3月12日、13日、14日に三重県名賀郡青山町にて開催された2003年度日本学生オリエンテーリング選手権大会(三重インカレ)の報告です。

クラシックにおいては、選手たちがゴールし始めた、その最初のうちにノーシードの寺垣内航選手(早稲田4)が66:16と言う好タイムでゴールし、会場を沸かせた。結局このタイムが優勝タイムとなった。東工大から出場した田中淳一選手は94:05、前田裕太選手は83:37と残念な結果に終わっている。上位は別記の通り。

翌日のリレー競技。選手権クラスは予定通り9:30(男子)にスタートした。東工大1走の田中淳一選手(4年)は、昨日のことなど吹っ切れた走りを見せ、トップ(図書館情報大学)から80秒遅れの5位で2走につないだ。本人としては早稲田・京都に先行された、と思っていたようだが、実はこの2校よりは先行していて、1走としては申し分ない働き。

2走の前田裕太選手(3年)、今年が初のリレー。途中のコントロールでのミスが響き、ゴール時点で8位。この時点で6位の筑波まで4分、5位の静岡まで8分。

3走はベテラン、斉藤孝男選手(4年)。難コース(DXパターン)を無難にこなし、6位で4走に望みを託す。この時点で、東大-東北-農工-京都(15分先行)-静岡(2分先行)-東工大-金沢(2分遅れ)。以下、千葉・慶応・国府・早稲田(12分遅れ)と続く。

4走は昨年に引き続き、徳江勇樹選手(4年)。東大が優勝を決め、東北・京都・農工までが続々と帰ってくる。しばらく空いて、出走から40分経過、先に静岡大が見える。続けて金沢大学。続けて昨日優勝した早稲田の寺垣内選手が帰ってきた。1分後、東工のトリムが崖の上の最終コン

トロールに姿を現した。

今年はこのように、リレー競技におきましては8位という結果になっています。

このほか、トレイル-Oで岩田淳選手(3年)が優勝し、また東工大はトレイルの部団体表彰(2位)を受けています。

他大を含めた詳細な順位などは公式ホームページか、[orienteering.com](http://www.orienteering.com)などを参照されたい。公式ホームページ

<http://www.orienteering.com/~ic2003/>

個人戦男子

1. 寺垣内 航(早稲田大学4) 66:16
2. 久野 雄介(東京大学4) 68:24
3. 櫻本 信一郎(東北大学4) 69:35
4. 新宅 有太(京都大学4) 70:56
5. 吉田 武生(京都大学4) 71:06
6. 山下 智之(東京農工大学3) 71:13
37. 前田 裕太(東京工業大学3) 83:37
52. 田中 淳一(東京工業大学4) 94:05

個人戦女子

1. 姫野 祐子(東北大学4) 58:51
2. 高野 麻記子(筑波大学4) 60:54
3. 浅井 千穂(京都大学4) 60:57
4. 皆川 美紀子(東京農工大学4) 62:51
5. 桑野 文(京都橘女子大学3) 67:13
6. 若木 まりも(京都大学4) 68:45

リレー男子

- 1位 東京大学 2:44:06
(山崎-久野-小熊-青木)
- 2位 東北大学 2:46:36
(櫻本-堀江-濱田-鉾立)
- 3位 京都大学 2:50:04

(長谷川-吉田-小野田-新宅)

4位 東京農工大学 2:56:19

(狐塚-山下-菊地-井上)

5位 静岡大学 3:06:56

(櫻木-李-小田村-内藤)

6位 金沢大学 3:10:48

(中澤-天谷-山越-松室)

8位 東京工業大学 3:14:59

(田中-前田-斎藤-徳江)

リレー女子

1位 千葉大学 2:21:27

(掛谷-花木-原)

2位 筑波大学 2:23:08

(杉崎-大保-高野)

3位 東京農工大学 2:27:59

(高木-志度-皆川)

4位 宮城学院女子大学 2:32:31

(櫻井-千葉-高橋)

5位 日本女子大学 2:44:04

(朴峠-石山-中野)

6位 京都大学 2:47:04

(伊東-若木-浅井)

この三重インカレをもって、春のインカレでクラシック・リレー競技を行うという現在の方式は終わり、04年度からは夏(または秋)にロング競技(クラシック)を行い、春にミドル(ショート競技)とリレー競技を行うという形式に変更となる。三重インカレ実行委員会もそのことを強く意識しており、この形式の最後を飾るのにふさわしい地図を用意した、と述べている。

ちなみに次のインカレはICロングが11/7に東日本大会の併設として愛知県にて(セレクションレースは6/20に群馬県「倉淵」にて)、ショート&リレー競技が3/11-13に、栃木県日光地区にて開催される予定である。

インカレの感想とこれからの OLT について

23期 斉藤孝男

個人戦、ルートミスして10分差の7位。団体戦、ミスなくまとめるも巡航の遅さがでてこちらもトップと10分差のレース。3回もリレーに出て、個人エリートにもなった奴の結果にしては不甲斐ない。しかし、それなりに結果に満足している自分と、特にリレーの走りを期待以上と褒める周りがある。褒められれば嬉しいが、それだけ期待されてなかったということだ。満足するのはこれがベストだと自分で思うからだ。結局俺は、体力的な「壁」を越えられなかった。2年の夏から、あるいは既に1年の頃からずっと言われ続けてきたことなのに。もちろんそれは自分の努力が足りなかったからで、他の何のせいでもないのだが。

OLT についても同じ事が言えると思う。入賞という「壁」がある。愛知下山の時はたまたま壁が壊れただけ、実際には今年のように壁は依然として我々の前に立ち塞がっているのである。そしてそれは他でもない、OLTとしての、現役は勿論、コーチ、OBOGも含めた人達の努力が足りていないから未だに越えられないのだと思う。これが、今回のインカレで感じたことである。

幸い、今回本年度コーチを依頼された。至らない所もあるだろうが、目標に向けて精一杯努力するつもりである。今年からリレーが3人制になり、ロングインカレが秋に行われるなどいろいろ変化が起きている。OLTも入賞まであと一歩から入賞常連になれるはずである。OLT一丸となって目標(今年はメダル最多獲得)に邁進するためにも、OBOGの方々にも御助力頂きたい。

主人公であるために

23 期 徳江勇樹

学生オリエンティアの最高峰、日本学生オリエンテーリング選手権大会。

互いに刺激し合い、切磋琢磨してきた東大・京大・早稲田・東北の熱い同期たち。長年の故障を克服し、2 位に 2 分差で ME を快勝した寺迫内。5 校の熱戦接戦を制した千葉 WE チーム。リレー男女エリートクラス入賞で快進撃中の東京農工。圧倒的な選手力で連覇を果たした東大 ME チーム…。

エースの負傷にリレーを泣く泣く放棄した筑波 ME チーム。1 走の失敗で 7 位に終わり、部総出で悔しさを謳い続けた OC…。

今回の伊賀インカレも、数多くの悲喜交々なエピソードが我々の胸に刻まれた。しかし、どれほど探しても、それらの中に「東京工業大学」の文字はない。

1・3 走の田中・斉藤の好走にも拘らず、2 走エースの前田とアンカー準エースの徳江がそれぞれ大きくトビ、8 位という力弱い結果に納まる。リレー他クラスも個人戦も、東工大は全て不甲斐ない成績に終わる。哀れなほどに「完敗」という言葉がよく似合う。

戦犯とも言える私が、これほど白々しく批評できるのはなぜか、あなたは疑問に思うだろう。今の私には仲間達に、そして先輩方に申し訳なさこそあれ、悔しさなどは微塵もない。部員それぞれが、勝手な方向を向き、為すべき努力も怠り、惰性で雪崩れ込んでしまったインカレ。「当然の結果」だった。だから悔しさはないのだ。

我々は参加者であって、当事者ではなかった。観衆にはなれたが、主人公にはなれなかったのだ。

過去を美化する訳ではない。しかし、前回の愛知インカレは、間違いなく主人公であった。苦楽を共にし鎬を削った仲間があり、血の滲む努力が

あり、目標があった。そして笑顔があった。その全てが、私を、我々を、主人公たらしめ、勝利の美酒にありつけた。

あの喜びを、もう 1 度味わいたい。仲間達と共有したい。インカレの薄暖かい空に、高く、より高く舞い上がりたい…。しかし卒業した今となっては叶わぬ想いである。今後は一介のオリエンティアとして活動を続けながら、OB として後輩達に「主人公」を伝えるべく尽力するつもりである。

2004 年度以降のインカレについて

25 期 村上諒一

2003 年度渉外の村上です。インカレの形式変更とそれに伴うセレクションの変更点について説明させていただきます。2004 年度からインカレが大きく変わろうとしています。これは、今までのインカレの形式が作られた時代から学生や OB の状況が変化してきているこのままのやり方ではインカレの存続が難しいと考えられたため、現状に合わせ身の丈に合ったインカレを作ろうという考えから生まれています。以下において具体的変更点を上げます。

インカレ全般について

現在インカレは、秋のショート、春のクラシック・リレーの組み合わせで行っていますが、来年度以降は、ショートとクラシックの時期を入れ替え名称もミドルとロングに変更します。(中身は同じ)つまり秋にロングを実施し、春にミドルとリレーの同時開催となります。これは、近年の学生オリエンティアの減少とインカレを運営する OB の減少に伴うものでクラシックとリレーの地図を同時に作るのが大変困難だというのが一

番の理由らしいです。

ミドル（現ショート）について

・開催時期が秋から春に移行するためセレクションの時期が現在のショートセレのある 6 月の後半からプレセレ・新人戦のある 10 月のはじめ前後に変わります。

・ミドル本選は、現行の 60 人×3 組で A-final 出場が 12 人×3 組から 40 人×4 組で A-final 出場が 10 人×4 組に変更になります。

・新しく学校枠ができ、セレクションとは別に各加盟校または準加盟校に対しミドル本選への出場枠が各校 1 人とえられます。

ロング（現クラシック）について

・開催時期が春から秋に移行するため、セレクション方式が現在の 10 月初めのプレセレ、12 月初めの本セレの二段階選抜から現在のショートセレのある 6 月中旬に本セレ一発勝負へ変わります。

リレーについて

・現行の 4 人制から 3 人制への移行。これは、運営の省エネ化と世界選手権等で 3 人リレーが一般的になってきた理由によります。

部長の言葉

25 期 北村伸介

つばめ会のみなさん、こんにちは。

この度、今年度の東京工業大学オリエンテーリング部部長になりました北村伸介と申します。一年間どうぞよろしくお願ひします。

さて、ご存じの方も多いと思いますが、昨年度の伊賀インカレにおきまして我々東工大 O L T は団体戦 ME 8 位という結果に終わりました。私自身は併設の方に出場していたので直接関係す

ることが出来なかったのですが、部の一員として、また昨年度 4 位であったこともあり悔しい思いをしました。しかし同時に、この部の何人がこのような結果になって悔しい思いをしているのか疑問に思いました。ME クラスの選手が帰ってきても、旗を持ち、声をあげて応援している人が少ないように思えたからです。もしかしたら、これには昨年度の目標設定に起因しているのかもしれない。昨年度の目標「5 位入賞」、これを知っている一年生は皆無、上級生も知らない人がいました。4 位入賞を果たしたことで、安易に目標を立てたことがいけなかったのだと思います。

インカレが終わった後の反省会では上記の内容以外にもたくさんの反省が出され、それをもとに今年の方針を考えた結果、目標を以下のように設定しました。

大目標：山川杯獲得

小目標：前期（4 月～9 月）で走行 360km、オリエンテーリング 15 回参加

大目標についてですが、常々「5 位入賞」という目標はどうしても一部の部員しか関係してこない事実、それに対して伊賀インカレにおいて創られた「山川杯」を獲得するにはどのクラスに出場する部員も関係してくるということから設定しました。このような目標にすれば昨年度のように部員が意識しなくなるというのを防げますし、インカレに至るまでの活動（ランニングやテクミ等）も活発になると思います。余談ですが、全日本大会の帰りに寄った宮島にて祈願して参りました「宮島の杓文字」を部室に掲げています。部室に立ち寄ることがありましたら是非ご覧下さい。

また小目標についてですが、オリエンテーリング部員である以上積極的に活動に参加していかなければならないということ、また基本の「走る」ということをおろそかにしてはならないということから設定しました。

このほかにも水曜練や金曜テクミなど普段の

活動においても変えていく方針です。しかしながら、ただ「変える」と言うだけなら簡単です。これを実行していくことで目標達成に近づいていくのだと思います。部員一同、これから頑張っに行こうと思いますのでご指導、ご声援のほど宜しくお願いします。

拙い文章で申し訳ありませんが、この辺で終わらせていただきます。

前部長の言葉

24期 坪居 大介

去年部長だった坪居です。原稿の依頼が来たので、投稿させていただきます。

3月にあった伊賀インカレでは、個人戦は37位と53位、団体戦は8位(6位と約4分差)という結果に終わりました。併設のほうも全体的に振るわず、個人戦の最高順位は7位、団体戦は11位という結果になり、フットでのメダルは一つもなし、という結果になりました。トレイルでは今年も個人戦優勝者を出し、団体戦でも2位に入り、「トレイルでは」妙に強い東工大、となりました。(力弱い・・・)

そのほか、ICS、本セレでも全体的にあまり良い成績とはいえず、勝ち負けで言うなら明らかに「負け」という1年になってしまいました。これについては、原因はいろいろあるとは思いますが、まずは運営陣の力不足を痛感しています。個人的にも、特に後期はあまり周りに良い影響を与えることが出来なかったことを反省しています。(言い訳をするなら、学業の成績が非常にやばかった・・・)

ただ、もちろん悪いことばかりではなく、良いこともあったのも事実です。その例といえば、何といっても前田(24期)でしょう。彼は今年1年かけてOLTのエースといえるまでに成長し、

ICS 予選では1位通過(実は前年度はショートセレ落選)東日本大会でもあわやE権獲得(M21Aで5位まで)というところまで行くなど、彼の成長を見るたび、部長として、同期として、嬉しくなったのを覚えています。

さて、もう年度も変わり、25期が運営学年になりました。部長の北村伸介君のもと、目標を立て、早速新歓など、運営の仕事を行い始めたようです。詳細は恐らく北村伸介君が書いてくれると思うので略しますが、その目標を見て、さらにその目標を達成するための方策などを見るにつけ、彼らのモチベーションの高さが伺えます。願わくは僕らの失敗から学び、モチベーションを1年間持続させ続け、そしてまた次のインカレ(インカレの体制が変わりました。詳細は多分村上君が書いてくれることでしょう。とりあえず場所は日光です)で、リレーメンバーを胴上げできますように・・・。(僕もまだ4年なので、本当はこんなことを書いちゃまずいのですが)

そういえば、これは別に去年に特有のことではないのですが、大会会場などであまりOBの方の顔を見ていない気がします(僕が顔を知らないというのもあるのですが)。OBの皆様、「体力がなくなった～」などと言わず、たまには大会に参加されてはいかがでしょうか。現役の皆様も、たくさんのOBが出ているのを見ると、きっと嬉しくなるはずですよ。

それでは、この辺でこの文章を締めさせていただきます。最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございました。

PS. ギリギリで進級しました。Y田さん、ごめんなさい。

第15回 OLT 杯開催

2003年12月7日、茨城県水戸市の木葉下2000(旧 木葉下)で OLT 杯が開催されました。多数の参加者の中、OLT 杯は3年の前田裕太選手が獲得、OB 杯であるつばめ杯は20期の仁多見剛さんが獲得しました。

OLT 杯

一位 1:05:48 前田裕太

二位 1:16:43 北崎茂

三位 1:17:25 斉藤孝男

つばめ杯

一位 1:27:06 仁多見剛(20期)

二位 1:29:15 奥田健史(16期)

三位 1:33:48 和田雄一郎(16期)

OLT 杯の反省等

24期 前田裕太

今回の OLT 杯のコースは距離 6450m、登距離 330m で、今年夏のユニバのミドル競技とほぼ同程度です。ユニバのミドルの優勝設定は35分ですから、私の65分48秒というタイムはかなり遅いタイムだったように思います。尤も、特にこの大会に合わせて準備をしてきたわけでもありませんし、全力で結果を狙うというよりはむしろインカレで最高の結果を出すために必要な練習をするという意識で走ったので、さほどいい結果が出なくてもやむを得ないとは思いますが。

このトレインではルートチョイスが鍵になると思ったので、レース中はとにかく地形の大きな流れを読んで最適なルートチョイスをする、ということ徹底しました。勝因としては、道走り区

間で先読みをして、ルートチョイスと脱出方向の確認をしておくことにより、ポストまわりであり立ち止まらずにスムーズに走り続けられたことと、日頃のトレーニングの差、それにあまり大きなミスなく走れたことが挙げられます。ただ、ポストまわりで少しうるついたレグが多く、このあたりが今後の課題になると思います。

まだ本番はこれからですが、ひとまず優勝ということで、これまで指導して下さった諸先輩方に感謝申し上げます。

つばめ杯を獲得して

20期 仁多見 剛

今回、第15回 OLT 杯併設のつばめ杯にて、初優勝できました。

少し感想などを書いてみます。

8月頃から、少しずつオリエンテーリングの勘を取り戻しつつあり、前週に開かれた下山大会でも、ナビゲート面では自分の思い通りのレースが出来ていた。ただ、体力面ではまだ物足りない感じもしていた。また、11月には多摩 OLT での初心者指導の機会もあり、基本技術の復習もしていたので技術面では不安はなかったが、未知の Terrain という点が気がかりであった。

当日、バス輸送のため時間の調整が利かず、会場で暇を持て余す。まあ、仕方がない。ナエウマは過去(と言っても、各選手の現役時代のこと)の実績から割り出して、適当に賭けておく。スタートまでは軽いジョグで行く。時間が余らないようにした。

レース序盤、S-1でとりあえず尾根たどりルートを選択。しかしすぐに、南のランク2回りのルートの存在に気づくも、後の祭り。辿りにくい笹藪に辟易しながらも、ケガしないように細心の

注意で進む。

道が多いテラインなので、小径をたどれるルートを最優先にしてルートチョイスをし、進む。途中、5 - 6で油断して(半分ぐらい)現在位置ロストをするも前方に進み、出て来た道でリロケート(途中の水路を小径と勘違いしていた…。危ない。)し、何とかカバーする。難所の12番は他者とパックのままパンチ。その後も地形ではなく、道優先のルートを選択しゴール。

ゴールで担当者に聞いたら、OBでゴールした人はいないとのことなので、(つばめ杯ラストスタートなので)この時点で優勝確定。

結局全員抜いたわけですが、併走していた人を除くとあまりOBとは会わなかったような気がする。

今回は色々な幸運に助けられて、つばめ杯を獲得できました。来年もカップを持ち続けたいところですが、後進たちがかなり成長しているので、ちょっと難しいかな、、、と思いつつも、そう簡単には負けませぬぞ、とだけ言っておきます。(来年は円井さんも来るだろうし。。。:今年もNT合宿。)

OLT 杯運営を終えて

実行委員長 22期 蔵田真彦

もう昨年の事となってしまいましたが、我々22期の手によるOLT杯を何とか無事(?)に終了させることができました。こうして、またOLT杯の歴史に新たな1ページを書き加えることができたのですが、そこに至るまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

○テライン決定

動き出しは中々に早く、4年生時の10月中には「テラインどうしようか?」、という話が出始めました。OLT最速を決定する重要な大会ですから、テライン自体の競技性が高く、かつ処女性が高いことが望まれます。しかし、OB・OGを始め、たくさんの方に参加してもらうためには、交通の便がよくなくてはなりません。この相反した条件を満たすテラインとして、相州荻窪、吾国山、峠の町松井田、忍野八海、松田山風走、そして木葉下が候補に上がりました。最初の4つは、いずれも地元渉外、地図が古すぎる、地図在庫がない、熊が出るなどの理由により却下されました。残る2つの内、木葉下の方が松田山風走に比べてよりスピーディーで、僅差の白熱した戦いが繰り広げられるのでは、ということで決定されました。

しかし、そのテラインまでの遠さのために後々悩まされることになるのですが……。

○テライン下見

事前の下見は、テープ巻きも含めて4回行いました。6月に第1回の下見を行ったのですが、我々の第一印象としては、「ヤブ!!!」の一言。しかしながら、地図の持ち主である筑波大によると、冬になると格段に植生がよくなるとのこと。今年はOLT杯史上初の冬場の開催となりましたが、これは、テスト日程が早まったこと、シーズン中のレーススケジュールが過密であることに加え、このヤブさが決定的な要因となりました。本当に植生は改善されるのか、内心かなり不安でしたが、秋が深まるにつれて確かに植生がよくなり、安心しました。

コース設定は、22期が誇るプランナー、菊沢が担当しました。「OLT最速を決定する」にふさわしいコースを組むべく議論を重ね、また、「このエリアを見ておきたい」ためにわざわざ下見に行ったりもしました。その結果、テラインの特性を生かして全体にスピーディーでありながらも、随所で技術力を要求するという、オリエンテーリングとしての面白みがあるコースに仕上がったと思います。

○バス輸送

それにしても、やはり木葉下は遠い。テライン選定の際に都心より電車で片道 2 時間半以内に到着できることを一つの条件としていましたが、これは満たすことができていませんでした。それでもまあよし、ということで木葉下に決定したのですが、昨年度の OLT 杯（千葉県片葉の芦）の時に、テラインまでの遠さはこれがぎりぎり、ということを言われていました。そのことが頭にあり、今回は、会内杯では前代未聞の東京発バス輸送を行うことになりました。

そもそも、木葉下までは水戸駅からバスで移動する必要があったのですが、路線バスの本数が少なく、水戸駅からのバス輸送を検討する必要がありました。バス会社に相談すると、1 日もしくは半日単位でしか借りられないとのこと。朝と夕方に駅と会場を 2 往復ずつするだけでも 1 日分の料金とは不経済である、ならばいっそ、ということで東京駅発の専用バスを運航することにしました。こうすることで、会場までわずか 1 時間半で到達することができ、さらに参加者の交通費負担を抑えることができます。さらに、そうすることでたくさんの外部参加が見込めるといって、一石三鳥のすばらしいアイデアといえます。しかしながら、これは同時に大会成功へのリスクを増大させることにもなり、我々の懸念材料は更に増えることになるのです。もう、胃が痛いなのなんのって。

○広報活動

参加者をなるべくたくさん集めてバスの乗車率をある程度まで上げなければ、赤字がでてしまいます。そういう事情もあり、広報活動には自然と力が入りました。東日本、インカレショート、全日本リレーにおいて会場受付を行いました。このうち全日本リレーには会場受付のためにわざわざ人を送り込み、またインカレショートでは、前夜に宿泊先のホテルでミーティング終了後に夜な夜な看板を作ったりもしました。HP も充実したものができました。

その甲斐あってか、遠方にもかかわらず例年通りたくさんの方々に足を運んで頂くことができました。

○大会本番

バンガローでの一夜はあまりに寒く、熟睡することができずに迎えた本番。天候に恵まれた最高のコンディションの中、3 年生の前田裕太（24 期）が 65 分というタイムで優勝を果たしました。2 位以下に 10 分以上の差をつけており、他の者は何をやっているんだといいたくもなります。しかし、我々が設定した「おそらくでることはないであろうウィニングタイム」の 70 分を大幅に上回っての結果であり、これは前田の快走を称えるべきでしょう。2 位以下のタイムは混戦の様様で、我々の思惑通りとなりました。

不成立をだすことなく、何とか大会を終了させることができましたが、至らない点も多々ありました。会場が手狭に感じられるほどたくさんの方にご参加いただき、一部の方は会場の外で過ごしていました。当日は晴天で暖かい日だったのでよかったものの、これで悪天候だったら悲惨な状況だったでしょう。また、事前準備における手違いにより計センに混乱が生じ、速報が遅れてしまいました。他にも、全体にバタバタしてしまった感があり、参加者の方に不安を感じさせてしまったように思います。それでも、搜索を出す際に車を出すことを申し出て頂いたり、皆さんには大会の運営に積極的にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

来年の実行委員長は、全体で 3 位、4 年生中 1 位になった斎藤（23 期）となりました。斎藤とは閉会式において堅い握手によって実行委員長のバトンを渡すことができましたが、この期は人数が少なく、やはり様々な困難が待ち受けていることでしょう。来年も、今年同様に皆さんにお引き立ていただければと思います。

同期のみんなには大変な思いをさせてしまったし、僕自身も大変な思いをしました。それでも、

今振り返れば結果的には楽しかったかな、と思います。しかし、バス輸送は成功して良かった、本当に。少し赤字だったけど・・・。
それでは、皆さんどうもお疲れ様でした。

全日本大会開催

2004年3月28日に山口県秋吉台において全日本大会が開催されました。

MEクラスで松澤俊行さんが3年ぶり2度目の優勝を果たしました。また、M21ASでは利光良平さんが2位を獲得しました。

M21E

1位	松澤 俊行	1:43:31	三河OLC
2位	村越 真	1:44:52	静岡OLC
3位	山口 大助	1:46:28	ES関東C
4位	鹿島田浩二	1:48:45	渋谷で走る会
5位	紺野 俊介	1:51:01	横浜OLクラブ
6位	加賀屋博文	1:51:56	渋谷で走る会
18位	円井 基史	2:04:29	多摩OL

WE

1位	番場 洋子	1:27:45	Team白樺
2位	田島 利佳	1:29:19	みちの会
3位	塩田 美佐	1:31:43	みちの会
4位	落合志保子	1:33:20	OLCルーパー
5位	金子 恵美	1:36:53	上尾OLC
6位	三好 暢子	1:39:26	上尾OLC

M21AS

2位	利光 良平	1:06:45	Team白樺
----	-------	---------	--------

第7回つばめ会総会・懇親会開催

11月8日、大岡山キャンパスにて第7回つばめ会総会・懇親会が開催されました。今年は2年に1回の幹事交代の年ということで、会長、事務局長を除き、新しい人に代わりました。新幹事長は19期の円井基史さんです。

他にも、前年度の活動、会計報告、今後の活動予定などが報告されました。

参加者(敬称略)：

浅野、平松、長坂、奥田、和田、當銘、円井、山田、小畑、川俣、仁多見、岡部、藤野

2003年度会計報告

以下、2003年度(2002年秋総会-2003年秋総会)の会計報告です。

収入の部(2003年10月31日時点)

	単価	口数	計
会費(社会人)	3000	25	75000
会費(学生)	1500	9	13500
利息			2
		計	88502

支出の部

ICプログラム広告	30525
IC花束	7000
IC差し入れ	2000
IC報告書広告	18105
海外遠征援助金	30000
結婚式祝電	2110
ショートセレ差し入れ	3654
総会案内葉書	8327

計 101721

繰り越し

前年度繰り越し 170315

収入-支出 -13219

計 157096

(単位:円)

新幹事自己紹介

名前 高橋 秀行

役職 会長

期 3期

学科、専攻 機械工学科、機械工学専攻(修士)

過去の役職 同好会:会長、OLC:部長

過去の実績 第1回東大OLK大会 H21A1位

他(Eクラスは出場経験なし)、インカレ大会運営

つばめ会のみなさんへ 皆様のおかげでつば

め会として内容がますます充実できています。こ

れからも引き続きご協力よろしくお願ひします。

名前 円井基史

役職 幹事長

期 19

学科、専攻 6類 建築学科卒

過去の役職 OLT:大会係、つばめ会:会計

過去の実績 インカレクラシック 13位、全日本

選手権 4位

つばめ会のみなさんへ 世代を越えた交流の場

を作りたい

名前 平松宗太郎

役職 総務部長

期 14期(91年入学)

学科、専攻 高分子工学

過去の役職 副部長、渉外、広報など

過去の実績 広報立ち上げた。工工戦立ち上げた。

つばめ会のみなさんへ いろんなイベントをや
りたいと思っています。気に入ったものがあつたら
参加してください。

名前 山田俊介

役職 会計

期 19期

学科、専攻 工学部機械知能システム学科 在籍
中

過去の役職 '98年度部長 '97年度渉外
他

過去の実績 '99本セララストゴール 成績
表3枚目 他

つばめ会のみなさんへ

「皆様に愛されるつばめ会」を目指し、精一杯
努めさせていただきます。

なにかと煙たがられる役職ですが、どうぞよろ
しくお願ひいたします。

名前 仁多見 剛
役職 名簿局長
期 20期
学科、専攻 理学部化学科・理工学研究科物質
科学専攻
過去の役職 技術部とかコーチとか
過去の実績 1999 年度インカレ団体戦 XU
3位(松澤・金田・仁多見)
つばめ会のみなさんへ 名簿情報は正確さが命。
変更がございましたら連絡をお願いします。

名前 岡部健志
役職 広報部長
期 21
学科、専攻 電気電子工学科、計算工学専攻
過去の役職 会計とか広報とか・・・
過去の実績 2001 年度インカレ XU 2 位
つばめ会のみなさんへ
どの代でも楽しめるような情報を発信していこ
うと思うので、みなさんよろしくをお願いします。

事務局長は 2004 年 4 月に菊沢恵三(22 期)
から田中淳一(23 期)に変わりました。

ML・ホームページについて

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつば
め会ML(メーリングリスト)を立ち上げてい
ます。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連
絡、近況報告など、お気軽に使ってください。
メールアドレスはtsubame@egroups.co.jp
です。ご不明な点がございましたら、管理者
の仁多見剛氏

(tsubame-owner@egroups.co.jp)までご連絡
ください。このML に関するホームページ(登
録メンバーのみ)

<http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にも
ぜひアクセスしてください。

また、つばめ会のホームページが稼動中です。
ぜひご覧ください。

つばめ会のホームページ(作成者:岡部健志
(21 期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/4476/>
東工大OLT のホームページもリニューアルし
ました。ぜひアクセスしてください。

東工大OLT のホームページ(作成者:岡英樹
氏(25 期))

[http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/
3247/](http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/3247/)

2003 年度つばめ会活動報告

年月日	イベント名	摘要
2002.11.16	第 6 回つばめ会総会・懇親会	昨年度の活動報告・今年度の活動予定等
2002.12	アンケート実施	OB・OG：9 名、現役：18 名が回答
2003.1	蔵前ジャーナル寄稿	総会・懇親会の報告を寄稿、文責：奥田(16 期)
2003.2	関東インカレ団体戦	OB - CUP につばめ会が出場(平松・奥田・和田・山根)
2003.3	Slope 第 13 号改訂版発行	編集者：川俣氏(20 期)
2003.3.8-9	愛知インカレ	大会プログラムに応援広告を掲載(1 頁、30000 円) 飲食物を差し入れ リレー表彰式で花束を贈呈(7000 円) 大会報告書にお祝い広告を掲載(1/2 頁、18000 円)
2003.6.22	ショートセレ	飲食物を差し入れ
2003.8.3-9	世界選手権	日本代表の円井選手(19 期)に援助金を贈呈(30000 円)
2003.9.13-14	つばめ会合宿	東工大大会プレ練習会とリンク、参加者 11 名
2003.10	つばめ会名簿発行	編集者：當銘氏(18 期)
2003.11	Slope 第 14 号発行	編集者：川俣氏(20 期)
2003.11.1	川合勝久さん結婚式	披露宴で祝電を贈呈
2003.11.8	第 7 回つばめ会総会・懇親会	幹事改選・昨年度の活動報告・今年度の活動予定等
2003.11.16	矢板インカレショート	下野新聞に応援広告を掲載(22 期)

編集後記

半年ぶりのSlopeとなります。今回はインカレやOLT杯など、OLTやオリエンテーリング中心の内容となりました。次回のWingではOB・OGの近況報告などOBの情報をもっと増やしていきたいと考えています。

今回から幹事も新しくなり、Slopeの編集者も変わりました。社会人になった時期と重なり、Slopeの編集に時間がさけなかったことが反省点です。原稿を書ってくれたみなさん、ありがとうございました。

次回のSlopeは半年後を予定しています。Slopeへの意見などがあれば、ぜひお寄せください。

東工大オリエンテーリング部OB/OG 会「つばめ会」会報

Slope 15号

発行責任者 円井 基文 編集責任者 岡部 健志(ta-keshi@mte.biglobe.ne.jp)